

劇でつたえる 保育シリーズ 年少 11月

あぶくたつた ～伝承遊び編～

(上演時間 約15分)

作・清田明世

● 登場人物

お母さん
お父さん
子ども1
子ども2
鍋又は鬼(ネコの声)
ナレーター

● あらすじ

今日のごはんはあつたかいお鍋。家族みんなで食べます。煮えたかな？食べてみよう。むしやむしやむしや。まだ煮えない？もう煮えた？あー美味しかった。ちよつと残しちゃったけど。

そうして眠りについた夜。「トントントン」と音が聞こえてきました。「何の音？」「寝ぼけ眼の家族の前に現れたのは…」。

● 作者より

「このお話は、『あぶくたつた』という昔ながらの遊びを劇化した作品です。簡単なルール遊びにチャレンジしていく中で、年少児がそのルールを覚えることはなかなかスムーズではありません。一つ一つの動作はできるようになってきても、全体を「つなげる」力は未熟です。「こうしてね」「こうやるんだよ」というルールとして教えるだけでなく、その遊びにストーリーがあることを知れば、子どもの「知っているスイッチ」はONになりやすいかもしれません。子どもは遊びの中から学びます。同時に、知っていることを遊びに活かします。いろいろな角度から幼少期の感性を刺激していけたらいいな、と思っています。

● 鍋から出てきたものは…

本作品では、鍋の中から飛び出してみんなを追いかけまわしたものの正体は、曖昧になっています。物語の中で鬼やおバケが出てくると怖い、そんな年少さんへ配慮したオリジナル演出です。実際に遊ぶときは、鬼「ご」こと同じだと教えてあげてください。鬼又はおバケは、みんなを下キトキさせたり、ビックリさせたりする、重要な役なのだ、と。

鬼「ご」の鬼役を嫌がる子ども多いでしょう。でも遊びの中で鬼はいつだって主役です。ぜひ楽しい鬼を演じていただけたらと思います。

ナレーター

みなさん、こんにちは。
私は、〇〇先生です。

(いつもみんなが楽しみにしている、まさるくんや
ちほちゃんたちが出てくるお話。
今日はちよっと変わっています。)

〇内は省いても良いです

今から、先生たちは劇をしますが、
今日登場するのは、あるお家の
お父さんとお母さん、そして二人の子どもたち。
そして、最後に…さあ、一体、何が出てくるでし
ょうか。
最後まで、見ていてくださいね。

*

〇家中

※鍋は大きな絵でも大
道具として作っても可
もしくは道具はなしでジ
ェスチャーだけでも可

子ども1

お母さん、ただいまー。

お母さん、料理をしてい
る仕草。
子どもたちが下手から登
場する。

お母さん

おかえりー。

あー、おなかすいたー。
お母さん、今日のごはん、なあに？

お母さん

今日はあったかいお鍋よ。

子どもたち

わーい。

お母さん

手洗いうがいしてねー。

子どもたち

はーい。